

クラス番号	914	ゼミタイプ	エクスカージョン型
		担当教員名	伊藤 文人
テーマ	戦争と社会福祉：戦時下の社会福祉と国民生活を当事者から学ぶ		

ゼミナール概要

目的、内容、方法等：

社会福祉士を目指される学生諸君にとって、「戦争」と聞いても、それがなぜ社会福祉と関係しているのかに疑問を持たれるかもしれません。しかし、社会福祉の理念のなかで最も重要なものは「平和な社会の実現」であることは言うまでもありません。確かに現代の日本社会は一見「平和なように見えます」。しかし、ほんの 70 数年前に、私たちの祖先は、300 万人を超える国内犠牲者、数千万に及ぶアジア太平洋地域での犠牲者を出した戦争当事国の住人でした。もちろん、この時代は人権も自由も男女平等も共生の思想もありませんでした。

3 年生になると社会福祉士になるため（高齢者）施設へ実習に行く学生諸君がたくさんいらっしゃいますが、総じて彼らが高齢者とのコミュニケーションを継続できない理由は、戦争時代を含めた過去の歴史に対する圧倒的な認識不足にあります。特に高齢者の生活を支援するための専門職（の卵）が、利用者の生きた過去の歴史に対する理解が不十分なものであったなら、そこから学ぶことも不十分な形にならざるを得ません。

本ゼミでは、①福祉の対極にある戦争を絶対に起こしてはならない、という問題意識を持ちながらも、それでも過去に起きた戦争がどのような形で展開されたのかを徹底的に「知る」ことを目的とします。②戦争という文脈のなかで、具体的に社会福祉の制度やサービスがどう運営され、社会福祉の対象者（当時の児童、障害者、高齢者、女性など）はどのような支援（待遇）を受けていたのかを文献や（映像）資料から学びます。③さらに戦争体験者である現在の高齢者の方々から、当時の日本社会の諸相について聞き取り（インタビュー）を行い、体験者の方々が、どのような教育を受けていたのか、どのような仕事をしていたのか、どのような生活をしていたのかなど、「生活史」（ライフ・ヒストリー）という方法を用いて、ある個人の形成史を浮かび上がらせることで、戦争という極限状態の中で、人間はどのように生きてきたのか、社会や国家をどう捉えてきたのか、その過程の中でも人々が持っていた喜びや希望は何であったのかを探ることをしたいと考えています。④インタビューをするにあたっては、「半田空襲と戦争を記録する会」という市民団体に協力を仰ぐ形で実施します。「記録する会」の方を大学にご招待して、戦争の具体的な中身のお話を聞いたり、大学近郊の戦跡と一緒に巡ったりすることも実施します。⑤12 月にはこれらを全てのゼミ員が協力する形で報告集にまとめ、発行します。

授業計画

前期）4 月：クラスとグループ形成作り、5～6 月：大東亜戦争全般の学習（「記録する会」の方の招待授業を含む）、7 月：振り返りとレポート作成と提出の順に進めます。

夏季休暇中）自分の祖父母（あるいは親戚）から、「戦争時代の日本社会と生活実態」に関する聞き取り作業をして、それを課題レポートにまとめて提出する。

後期）9 月：生活史に関する学習、10 月～11 月：「記録する会」との協力のもとで戦争体験をされた高齢者へグループ・インタビューを準備した上で実施します。12 月：振り返りとレポート執筆、全体の報告集の作成と発行の順に進めたいと思います。

*他専修とのコラボレーション企画も練りたいと思います。

担当教員からのメッセージ

・担当教員である伊藤は、大学では〔社会福祉の〕歴史と理論や思想を専攻しています。歴史の効用は、「過去と向き合う中で現在の課題への糸口を見つけることができる」と言われていますが、まずは「歴史を学ぶことが好き！」という人が このゼミを楽しむ上で一番の近道になる と思います。

・テーマ別のグループ学習が前提になります。サブゼミを調整して協力しあわないとフィールドワークも満足にできません。「誰かがなんとかしてくれる」という受講態度ではゼミは成立しません。各自が「自分は〇〇でゼミに貢献する」ことをエントリー・シートに書いてください。そしてそれを実行してください。外に出るため、そのコストもある程度負担できる必要があります（ゼミ活動資金積立を実施します）。

・他者の生活や考え方に関心を持ち、人の話を聴くのが好きで、一緒に学び合い助け合うことを厭わない人を歓迎したいと思います（レクやコンパ企画なども皆さんが決めていくものです）。